

9月・10月の管理ポイント

平成19年8月25日



株式会社

トモグリーンケミカル

今年も梅雨明けが遅く、9月に入っても厳しい残暑が予想されます。芝生の生育期に入るまでは、糖・アミノ酸・光などを組み合わせて状態を維持していきましょう。

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第89号



グリーンメカ・マリンパワー・光合成細菌

芝の呼吸過多による糖消費と土壌菌数の回復に...

残暑の厳しい9月は高温による芝の呼吸量が増加し、糖含有量は減少します。また、10月に入るとベントの生育期となり、糖の消費量も増大します。

糖が少なくなると特に根に影響を与えるので、グリーンメカでしっかり補給していきましょう。

7月、8月の高温ストレスから、少しでも早くベントを回復させるために、土壌中の硫化水素など根に直接影響を与える有害ガスを軽減させましょう。光合成細菌とマリンパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌の定着を目指します。

使用量：グリーンメカ 5~10ml/m² マリンパワー 2~4ml/m² 光合成細菌 1~10ml/m² 散布水量 1L/m²以上



サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には...

9月の更新作業時に光合成細菌+サッチ・リムーバーで、グリーンのサッチ層を軽減しましょう。

他の微生物由来のサッチ分解剤とは異なり、酵素製剤なので土壌中でも安定して働きます(又、農薬との混用もOKです)。分解されたサッチは、糖類やチッソ源となり、植物や他の微生物のエサとして再利用されます。

使用量：1~2g/m² 0.5L/m²散布 使用回数：月1~2回



バイボン乳剤・ダイアジノンSLゾル

害虫多発生時のローテーション散布の一剤として...

9月、10月はスジキリヨトウの3化期(クシナシスジキリヨトウは3,4化期)幼虫の発生をはじめ、タマナヤガ幼虫、ツトガ幼虫、コガネムシ幼虫、シバオサソウムシ幼・成虫と多種の害虫が活発に活動する時期です。

殺虫剤の散布回数が多くなる時期ですから、薬剤の耐性予防としてローテーション散布を行ないましょう。

バイボン乳剤は、DDVP+エトフェンプロックスの混合剤なので、速効性で効果が的確に現れます。

又、更新作業後は、コガネムシ類幼虫対象にダイアジノンSLゾルを処理しておきましょう。

使用量：バイボン乳剤 2000倍 0.3L/m²、ダイアジノンSLゾル 250倍 0.7~1L/m²



みみんず水和剤

ミミズの糞塚防止には...

9月、10月は、ミミズが活発に動き回り糞塚が多くなる時期です。特にアプローチ付近など、プレーヤーの邪魔になります。

使用する時は、降雨後や朝か夕方の散布がお奨めです。

使用量：1000倍 2L/m² アクアグロ併用をお奨めします。



カラーマーカー®・L

除草剤散布時の識別剤として...

食用色素を成分としてありますので、安心してお使いいただけます。

(従来の投げ込む粉体を液状にしました)

除草剤散布時の着色識別剤(カラーマーカー)として利用していただけます。

使用量：3000~5000倍 (倍率は芝生や主剤の色合いにより自由に加減下さい)

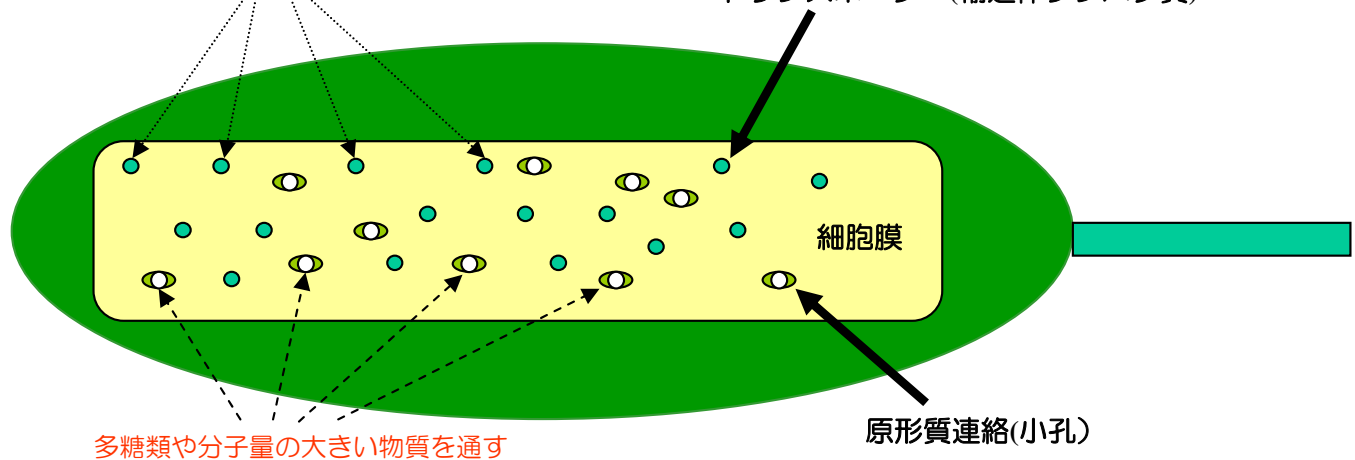
糖・アミノ酸の葉面吸収メカニズム

夏場に芝が弱っている時、糖やアミノ酸が肥料の代わりに散布されます。根が衰弱している時期ですので、当然葉面からの吸収を期待して散布するケースが多くなると思います。

今回は葉面から吸収されるメカニズムについて紹介します。

ブドウ糖、ショ糖などの単糖・二糖類、アミノ酸を通す

トランスポーター(輸送体タンパク質)



多糖類や分子量の大きい物質を通す

- **トランスポーター**：物質を輸送する働きがあるタンパク質。糖やアミノ酸など輸送する有機物質によって種類が違う。葉面の細胞膜に埋め込まれている。
- **原形質連絡(小孔)**：細胞膜に存在する小孔細胞。分子量の大きいものを細胞内に取り込むことができる(分子量が数千程度までは通すといわれている)。

小さい物質の場合(ブドウ糖、ショ糖、アミノ酸など)

ブドウ糖やショ糖、アミノ酸などの分子量が小さいものは(ちなみにブドウ糖の分子量は約180g/mol)、**トランスポーター**によって細胞内に積極的に取り込まれます。

大きい物質の場合(多糖類～分子量が数千の物質まで)

オリゴ糖(単糖が数個～10個程度連なったもの)や多糖などの分子量が大きいものは、**原形質連絡**と呼ばれる小孔を通して取り込まれます。

糖資材を散布する時に気を付けたいこと

病害後の回復等で使用する場合は、殺菌剤等を散布して病徴を抑えてから散布するか、殺菌剤とのタンクミックスをして散布することをお勧めします。

散布した糖は葉面から植物体内に吸収され、回復に役立つことは間違いありませんが、それ以上に葉面にいる微生物(カビや細菌)の絶好の栄養源となって、積極的に増殖します。

芝の回復のために散布したはずが、病原菌の活性を高めてしまう結果になってしまうかもしれません。